

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告

柳 本 伊 左 雄

1. 当プロジェクト概要

ラオス、ルアンパバーンは、フランス統治時代の街並みが現存していることから、1995年に世界遺産に指定された。しかしその地区内にある仏像は破損が激しく早急に修復をおこなう必要が検討された。

2001年9月、身延山大学とラオス文化情報省との間にルアンパバーン内の仏像修復に関する調印が交わされ、ここから現在までの10年間に及ぶプロジェクトが始まった。

プロジェクト発足当初は、地区内36の寺院調査や1,174体の仏像基本台帳の作成・把握という基礎情報の収集からの着手であったが、現在は仏像修復活動の拡大・現地の修復技術者育成にまで進展を遂げている。

身延山大学東洋文化研究所仏像制作修復室は、ラオスにおいて10年に及ぶ活動が評価され、近年ラオス政府及び関係団体等から更なるプロジェクトの継続を求められている。

2. 活動・成果

ルアンパバーン地区内の寺院では、破損が進んだ仏像は須弥壇から降ろされ、人目に付かない場所に陳列されている。歴史的価値のある木彫仏像も多数見受けられるが、その価値を見出されずに埃をかぶり、風雨に晒され多大なダメージを受けている。

このプロジェクトの主な目的は、その壊れた仏像の修復・復元であり2011年3月現在までワット・ビスン、ワット・シェントーン、王宮博物館等の破損した仏像21体の修復を終了している。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

修復を行うに当たり、ラオスにおける仏像の基礎研究及び仏像等の情報が不十分な為、現状では思うような修復は行えなかった。当プロジェクトにおいても2001年9月より仏像基本台帳の作成・仏像の基礎研究などを行っているが十分とは言えない。

修復の考え方として、まず緊急性とラオス国内の経済を考慮した。さらに修復対象仏が大量な為ラオス独自での修復活動の定着を重視した。

したがってプロジェクトの目的を考えた場合、仏像修復の質を落とさない範囲での、早さ・安さ・分かりやすさが重要だと考えている。

主な成果

- 1) ワット・ビスン、ワット・シェントーン、王宮博物館各所蔵の仏像修復21体
- 2) 36ヵ寺・1174体の仏像の調査カードの作成
と写真撮影
- 3) ルアン普拉バン仏像基本台帳（1174体）（英語版）
の作成
- 4) ルアン普拉バン仏像基本台帳（ラオス語版）の作成

継続中の活動

- 1) 仏像修復技術者育成
- 2) 仏像修復テキストの作成（英語版・ラオス語版の出版）
- 3) ラオス伝統的仏像制作技法の研究
- 4) ラオス漆・樹脂の調査・研究
- 5) パタイペット仏像の調査
- 5) 仏像銘文の解読
- 6) 仏像修復所の整備

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

7) 仏像盗難調査

8) ラオス漆の植林準備

3. 第13回プロジェクト報告

2001年9月より始めたラオス仏像修復プロジェクトも10年目を迎え、多くの問題点を抱えながらも着実に成果を上げつつある。

節目を迎えた今回のプロジェクトにおいては通常の企画（仏像修復等）の他に、10周年記念展覧会の開催とそれに伴う記念式典を行った。

1. 期間 2011年2月5日～同年3月1日
2. 場所 ラオス人民民主共和国ルアンパバーン県世界遺産地域内
3. 人員 日本国

浜島 典彦	身延山大学学長
横山 義弘	同学法人局長
寺尾 英智	同学東洋文化研究所所長
柳本伊左雄	同学教授
池上 要靖	同学教授
ジル・エマ・ストロースマン	同学特任教授
木村 慈法	同学東洋文化研究所研究員
鈴木 義孝	同学同研究所研究生
宮坂 葉子	同学同研究所研究生
馬場 晃道	同学3回生

ラオス人民民主共和国

Mr.ブンティアン 情報文化省美術工芸局局长

Mr.カムスーク 情報文化省美術工芸局課長

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

Mr.シンテーワ	情報文化省美術工芸局技官
Mr.マイニーワン	情報文化省遺産局副局長
Mr.マイシン	国立工芸大学ヴィエンチャン校校長
Mr.シートン	国立工芸大学ヴィエンチャン校副校長
Mr.プッター	国立工芸大学ヴィエンチャン校教諭
Mr.スワンカム	国立工芸大学ヴィエンチャン校教諭
Mr.ソムチャイ	国立工芸大学ヴィエンチャン校教諭
Mr.パイワン	国立工芸大学ヴィエンチャン校教諭
Mr.シートン	国立工芸大学ヴィエンチャン校教諭
Mrs.ノイ	国立王宮博物館学芸員

4. 事業内容

- ①プロジェクト10周年記念展覧会の開催
- ②仏像修復技術者の育成（工芸大学学術交流）
- ③修復材料の購入
- ④世界遺産地域内寺院の仏像個体数及び設置状況再調査
- ⑤世界遺産地域内7体の仏像修復

5. 詳細

①プロジェクト10周年記念展覧会の開催

国立王宮博物館展示室において10年間の成果である修復仏像の展示を行った。この展示は今後の仏像修復活動を充実するためにも、ラオス、ルアンパバーン地区の関係者に広く知ってもらうための企画であった。特に各寺院の仏像修復に関する認識は十分に得られたと思う。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

期 間 2月12日（土）～2月28日（月）
場 所 ルアンパバン国立王宮博物館内特別展示室及修復所
主内容 修復完了仏14体展示及び修復作業公開
備 考 2月12日（土）展覧会開催記念式典の開催
主賓ーラオス情報文化省美術工芸局局长
ルアンパバーン県副知事
在ラオス日本国特命全権大使閣下

※記念展にルアンパバーン36カ寺の僧侶および関係者を全て招いた。

②仏像修復技術者の育成（工芸大学学術交流）

プロジェクト発足当時よりラオス国内の関連技術者、僧侶等を対象に技術者の育成を試みてきたが、数年前よりビエンチャン国立工芸大学の彫刻教員の育成が成果を上げており、今後は対象を工芸大学に絞って進めていきたいと考えている。

工芸大学参加者

プッター先生 Mr.Phoutha Kommamuong

1954/8/13 National Institute of Fine Arts

スワンカム先生 Mr.Souvankham Vongxayyalad

1971/9/12 National Institute of Fine Arts

シートン先生 Mr.Sithong Siveunxay

1976/6/23 National Institute of Fine Arts

ソムチャイ先生 Mr.Somchay Souvankham

1972/10/11 National Institute of Fine Arts

パイワン先生 Mr.Phaivanh Thamavongsa

1971/2/9 National Institute of Fine Arts

③修復材料の購入

マイサック（チーク）・マイドゥー（カリン）・マイチャン（香木）の購入を行った。

④世界遺産地域内寺院の仏像個体数及び設置状況再調査

基本台帳制作後（平成20年）に仏像体数の確認を行ったところ、約100体の盗難被害が確認され、それ以後毎回個体数の確認を行っている。

今年度も確認作業を行った。組織的盗難は減ったが、観光客等による小品や、一部破壊して持ち去る盗難が増えている。一刻も早く設置方法の改善とセキュリティ対策が待たれる。

⑤世界遺産地域内7体の仏像修復

ワット・ビスン4体、ワット・シェントーン2体、王宮博物館1体の修復を行った。

6. 今後の課題

仏像修復においてはラオス仏像の基礎研究の遅れがある為、今後多方面から研究者の参加が必要である。

修復の現場サイドとしてはラオス国内技術者のさらなる育成が重要であり、具体的にはラオス工芸大学に仏像修復学科の開設を計画している。

仏像修復においては修復材料の入手に苦慮している。特にマイチャンは香油の材料として乱伐されたため現在ラオスにおいては伐採が禁止されている。しかしながら盗伐は現在も盛んに行われているようで、資源の枯渇についても心配している。

又、世界的にもラオス漆の研究が進んでおらず、統計上ではラオス漆の産出は記録がないため注目されていない。しかし我々の調査においては

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

漆科の木は何点が発見されており、破損した仏像より採取した漆の残片の成分分析と照らし合わせて、どのような漆が使用されていたかを明らかにする事は重要である。さらに原材料の確保という面からも使用されていた漆の植林は、修復の今後を考えた場合必ず必要になってくると思う。

最も緊急の課題として仏像の盗難がある。原因としては仏像の設置状態で、世界遺産に指定されているにも関わらず、保護という面から何の対策もとらず、観光客にそのまま公開するのは無理があると思われる。さらに世界遺産の指定は仏像にとって美術品としての価値が生じてくることから、組織的な盗難へと進んでしまった弊害も生まれている。

現在ラオスでは中国・ベトナム・韓国などが争うように土木・建築の援助を行っている。

プロジェクト開始当初においては、日本による援助が目立っていたがすっかり影をひそめてしまった感がある。日本大使館によるとラオスは日本の援助重点地区に指定されているとのことである。

当プロジェクトではラオスにおいて、開始10年の区切りとして記念式典と仏像修復展をおこなった。また修復所を公開して修復作業を多くの人々に見学してもらい高い評価を受けた。今後は公の機関とも連携し、日本でしかやれない援助としてラオスでのプロジェクトを進めていきたい。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

INVESTIGATION REPORT OF STOLEN BUDDHA 2011

NO.	VAT	Stolen Buddha No.	Date
1	Vat Pakkthane	Stolen No. 3, 5 Move to monk house No.2, 4	2/16
2	Vat Xiengthong	Stolen No.12, 72, 92, No.64 (2/3buddha), No.12 (2011), No.50 (2011) Come back No.111, 122, 17, 125, 134 (2011) Move to monk house No.106, 107, 108, 109 Not found No.4, 11, 13, 18, 22, 35, 45, 47, 49, 56, 60, 63, 64 (2011), 72 (2011) Restoration Buddha in 2011 No.29, 51	2/16
3	Vat Khili	Complete	2/16
4	Vat Sibounheuang	Complete	2/19
5	Vat Sirimoungkhoun	Not found No.2, 3, 4, 5 (Agu to Sep, 2008) Image of main Buddha purchase in February, 2010. No.1 change to the right	2/17
6	Vat Sop	Complete	2/17
7	Vat Sene	Come back No.16, 29, 30, 46, 59 No.82 - when investigated 2004, in kuti this investigated unconfirmed	2/19
8	Vat Nong	Stolen No.13 but new Buddha image was put	2/17
9	Vat Siphouttabath	Returned this year No.44 Broken Buddha No.22, 23, 32, 33, 34, 36, 44, 72	2/20
10	Vat Paphay	Lost No.15, 16, 17	2/17
11	Vat Xiengmouane	Lost No.18, 21, 23	2/17
12	Vat choumkhong	Move to kuti No.2 Come back to main temple No.9, 17 Stolen No.12 (2003 to 2009)	2/19
13	Vat May	Not found No.11, 13, 14, 15, 24, 56, 57, 59, 72, 84, 102 (2011) Stolen No.107	2/25
14	Vat Phonexay	Complete (New investigation No.12, 13)	2/19
15	Vat Hoxieng	Complete	2/21
16	Vat Thatnoi	Complete (New investigation No.7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)	2/21
17	Vat Thatlouang	Stolen No.3, 4, 5, 9, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17, 19, 22, 24, 28, 33, 34, 40, 41	2/21
18	Vat Manorum	Come back to main temple No.31 Not found No.53 (2011)	2/20
19	Vat Meunna	Complete Move to kuti No.17, 18	2/24
20	Vat Vixounnalat	Lost No.60 Come back to main temple No.56 Already restoration Buddha No.43, 47, 55, 56, 38, 39, 25, 22, 29, 30, 31, 34, 36, 40 Restoration Buddha in 2011 No.61, 44, 48, 81 Not found No.88, 90, 91, 111, 28 (2011)	2/14
21	Vat Aham	Not investigated	
22	Vat Aphay	Complete	2/27
23	Vat Thamphousi	Complete Move to kuti No.2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	2/23
24	Vat Pahuak	Not investigated	
25	Vat Chomsi	Stolen No.1, 2, 4 (2004)	2/23
26	Vat Phabathay	Complete	2/21
27	Vat Salatham	Not investigated	
28	Vat Xiengmen	Complete	2/24
29	Vat Chomphet	Not investigated	
30	Vat Longkhoun	Not found No.11 (2011) (New investigation No.15, 16, 17, 18, 19, 20, 21)	2/24
31	Vat Thamxiengmen	Complete	2/24
32	Vat Hatsiao	Not investigated	
33	Vat Phonesaat	Complete (New investigation No.3)	2/23
34	Vat Phanlouang	Stolen No.5, 6, 8, 10, 12, 13, 14, 18, 19 and no investigation 11 buddha image Move to kuti No.7, 9	2/23
35	Vat Taohay	Not found No.21 (2011)	2/23

Stolen for this year • 2 Lost for this year • 0 Not found for this year • 17 Total • 19

W・ビスン No.44

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：鈴木義孝・宮坂葉子

形 態：ハムニャ

制作年代：不明

サ イ ズ：像高 H 178cm

像最大幅 W 42cm

像最大奥行 D 32cm

材 料：マイチャン

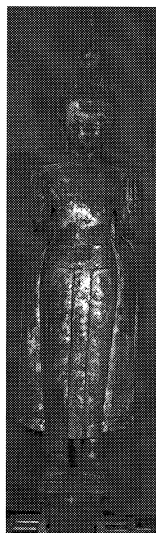
仕 様：袈裟等着衣は paku（パコム、
袈裟）を上体に纏い、パサポー
ン（袴）を履いて帯を付けてい
る。

金箔は赤口仕様

下地に使用したナマニャーンが暗赤色であることが珍しい。

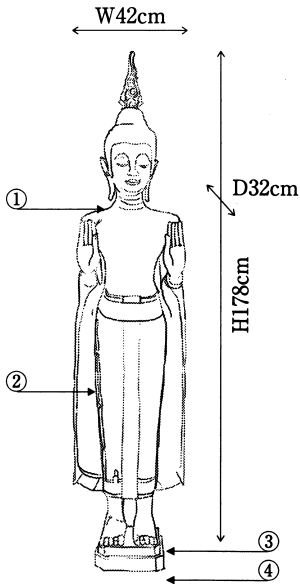


修復前



修復後

破損状況



- ①左頸から右脇にかけて小さな欠損6ヶ所
- ②右腰から右足にかけて大きな亀裂2ヶ所
（カスガイ使用有り）・小さな欠損6ヶ所
- ③台座右側部亀裂（木材にて修正痕有り）
- ④台座底部の欠損（主材の木心部ホール状の欠損）

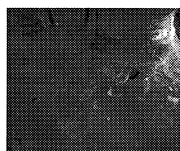
修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

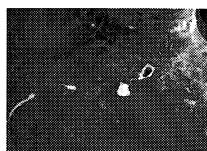
①左頸から右脇

亀裂全てを木工エポキシパテで埋め、金箔を貼る為に漆下地を施す。
漆で金箔を貼り、古色仕上げを行う。

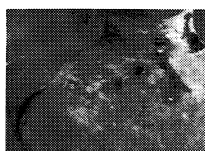
第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



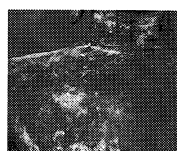
修復前



木工エポキシパテ充填



カモク加工



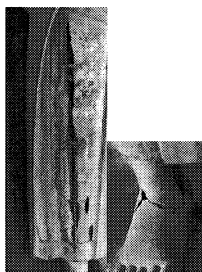
修復後

②右腰から右足にかけての亀裂

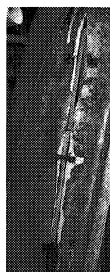
右腰から裾の亀裂には鋸が3か所に打ち付けてあった。しかし鋸がさびていた為撤去し、亀裂部の凹凸を木工エポキシパテで慣らし新材を埋め合わせた。その際生じた隙間はカモクで埋める。

表面の凹凸はカモクで処理する。右足亀裂は木工エポキシパテで埋め、こちら表面をカモクで処理する。

カモク処理を行った亀裂部に金箔を貼り古色仕上げを施す。



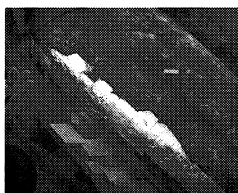
修復前



新材接合



カモク表面処理



金箔貼り

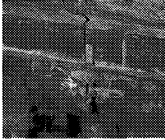


修復後

③台座

右側面に亀裂があり、これ以上亀裂が入らないよう鋸を打ち込む。

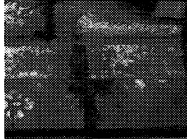
亀裂にカモクを埋め、表面処理後金箔とナムハーンで古色を施す。



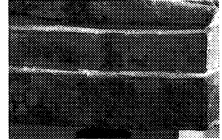
修復前



鋸打ち込み



カモク表面処理

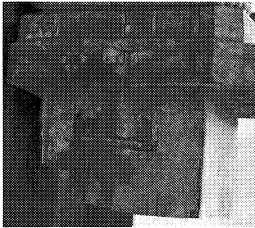


修復後

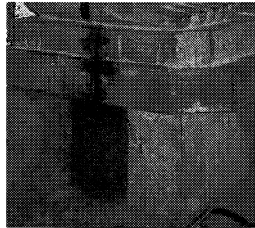
④台座底部

腐朽が激しいところは切り取り、新材を貼り合わせた。接合強化の為、鋸を打ち込む。

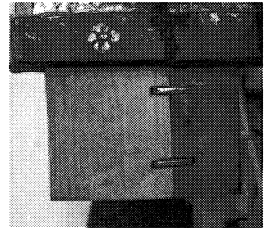
底部は隠れてしまう部分なので、色合わせは行わなかった。



修復前



腐朽部切り取り



修復後

W・ビスン No.61

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：Sithongu

修復指導：柳本

仏像形態：ハムニャ

制作年代：不明

制作年代は不明であるが、台座にムッケオ（ガラス）が使用されているため、現時点では100年前後以前に制作されたと考えられる。

※ムッケオについては使用年代の調査要



修復前



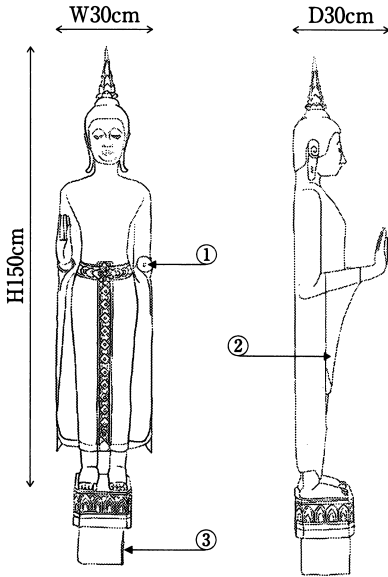
修復後

サ イ ズ：像高 H 150cm 像最大幅 W 30cm 像最大奥行き D 30cm

材 料：マイチャン

仕 様：袈裟等着衣は paku（パコム、袈裟）を上体に纏い、パサボーン（袴）を履いて花（サイ）がらの彫刻がある帯を付けている。
パサボーン（袴）裾周りに花柄模様の彫刻有り。
台座にロカチャン（花？）模様の彫刻あり

破損状況



- ①左手 欠落
- ②右腕 右手から右腕部および右袖欠損（接合部分の割れ）
- ③台座底部（ホール状の欠損）・台座上部欠損（表面に小さい欠損が数か所点在）
- ④全体にペンキ塗りあり

修復方針

欠落・欠損部分を現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に復元修復を行う。

金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

Na61の仏像についてはほぼ全面にペンキが使用されているためペンキの除去を行う。

左手の復元は右手を参考に復元を行う。

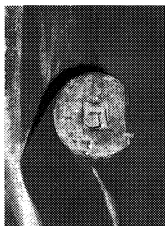
接着剤は現地購入可能な接着剤を用いる。

修復過程

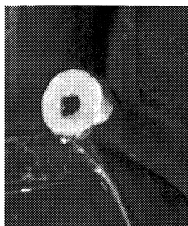
①左手欠落部分の復元

修復による欠落接合部分の木痩せを防ぐため、接合部分の木工エポキシパテによる加工を行う。

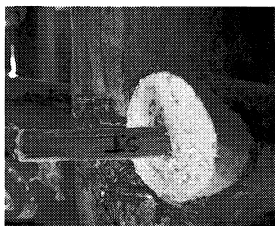
復元左手接合補強のための木ダボを接合個所に埋め込む。



修復前

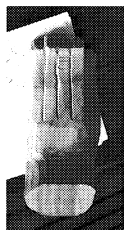


修復部分の木工エポキシ
パテ加工



修復部分ダボの埋め込み

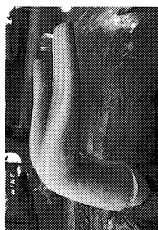
残存している右手を参考に左手の復元を行う。



右手復元作業 1



右手復元作業 2

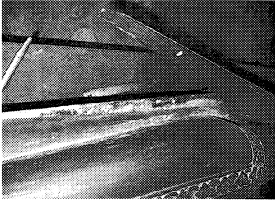


右手復元作業 3

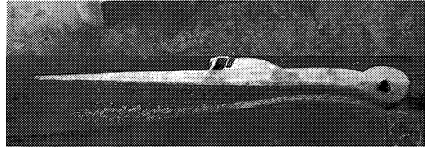
②右腕・右腕部および右袖欠損部分の接合作業

接着技術の不良のため、残存接着剤の除去及び接着面の調整を行い、新たに接合する為の作業を行う。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



不完全な接合部分を外す



接合部分の木工エポキシパテ加工

新たに接合し、接合部分の修復と古色を施す。



修復前



接合



修復後

③台座底部修復作業

欠損部分にカモクを補い新しくマイチャンで欠損部分を修復する。



修復前



修復後

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

④ペンキの除去



修復前



ガーゼあて



有機溶剤散布



除去後

コメント

ナンバー61の仏像については修理しようとした意思は感じられる。しかしペンキの使用や不完全な接合はかえって仏像の破損を増やしてしまっている。適切な修復方法の確立とトレーニングが必要だと感じている。

W・ビスン No.81

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：Phoutha

仏像形態：ハムニャ

制作年代：不明

サ イ ズ：像高 H 176cm

最大幅 W 47cm

最大奥行 D 28cm

材 料：マイチャン

仕 様：袈裟等着衣は paku（パ

コム、袈裟）を上体に纏

い、パサボーン（袴）を

履いて帯を付けている。

金箔は赤口仕様

下地に使用したナマニャーンが暗赤色であることが珍しい。

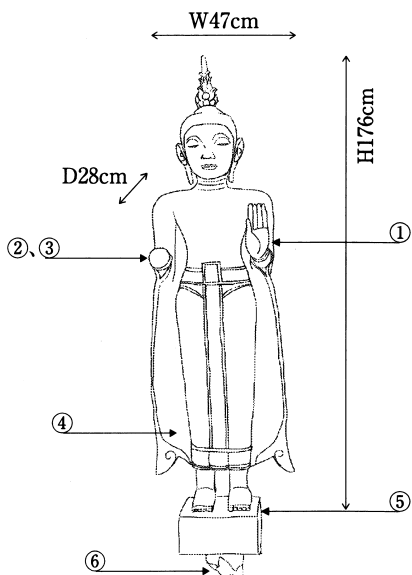


修復前



修復後

破損状況



- ①左手首の接合不備（カモクにて修理痕あり）
- ②右手欠損
- ③右手腕部から袖接合不備（カモクにて修理痕あり）
- ④右袖先亀裂
- ⑤左足外側部から台座左側部欠損
- ⑥台座底部の欠損（主材の木心部ホール状の欠損）

修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

Na81の仏像については、木工エポキシパテを使用して木痩せ部分を補い、マイチャンにて欠損部分を作成し接着剤で結合する。さらにカモクにて仕上げを行い、金箔を貼り古色に仕上げる。

①左手再接合

接着技術不良の為、残存接着剤の除去及び接着面の調整を行い、再接合

を行う。

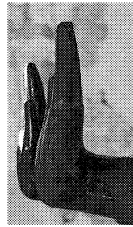
接着箇所をカモクで表面処理し、漆下地のナムハーンを塗る。金箔を貼り古色を施す。



修復前



再接合



ナムハーン下地

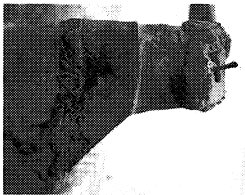


修復後

②右手作成③接合不備の修復

右手首・腕はカモクを使用した修復痕があるが不完全の為除去する。腕は再接合を行う。新規作成した右手を接合し、

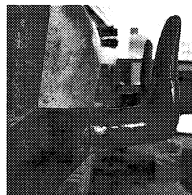
カモク除去部と右手に漆・ナムハーンを塗布する。金箔を貼り古色仕上げを施す。



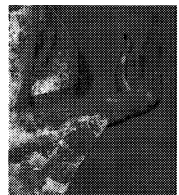
修復前



右手接合



ナムハーン下地



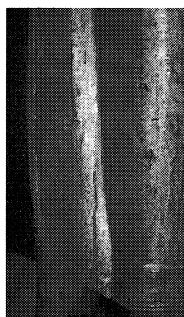
修復後

④右袖修復

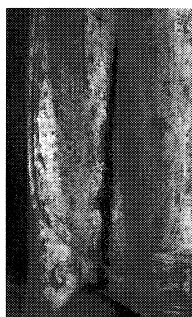
亀裂部にカモクを埋め整形し、ナムハーンを塗布する。

金箔を貼り古色を施す。

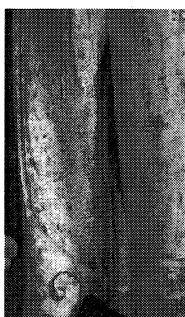
第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



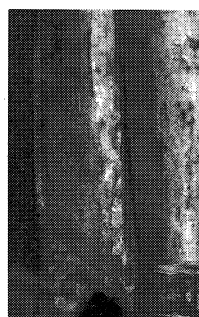
修復前



カモク加工



ナムハーン下地

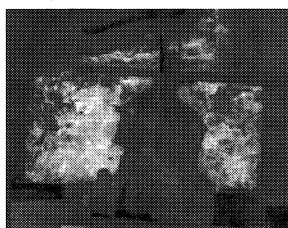


修復後

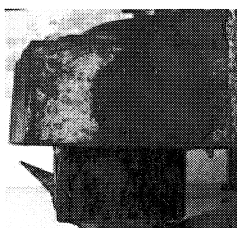
⑤左足・台座修復

欠損部分にカモクを補い、さらに新材を接合する。

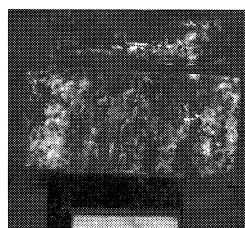
ナムハーン下地塗布後金箔を貼り古色を施す。



修復前



ナムハーン下地



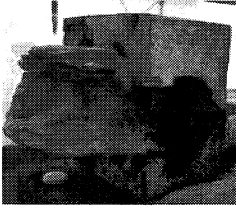
修復後

⑥台座底部修復

欠損部分をカモクで整え、新材をはめ込む。接着強化の為、ダボを埋め込む。

台座底部は隠れてしまう箇所の為、漆を塗り仕上げとする。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復前



新材接着



修復後

W・シェントーン No.29

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：Souvankham

仏像形態：ハムニャ

制作年代：不明

サ イ ズ：像高 H 154cm

像最大幅 W 42cm

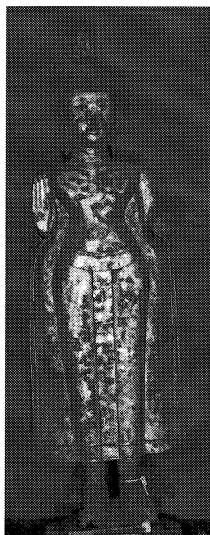
像最大奥 D 23cm

材 料：マイキャン

仕 様：袈裟等着衣は paku（パ
コム、袈裟）を上体に纏
い、パサボーン（袴）を
履いて帯を付けている。

金箔は白口仕様

※白口一箔作成時、銀を混ぜた金箔

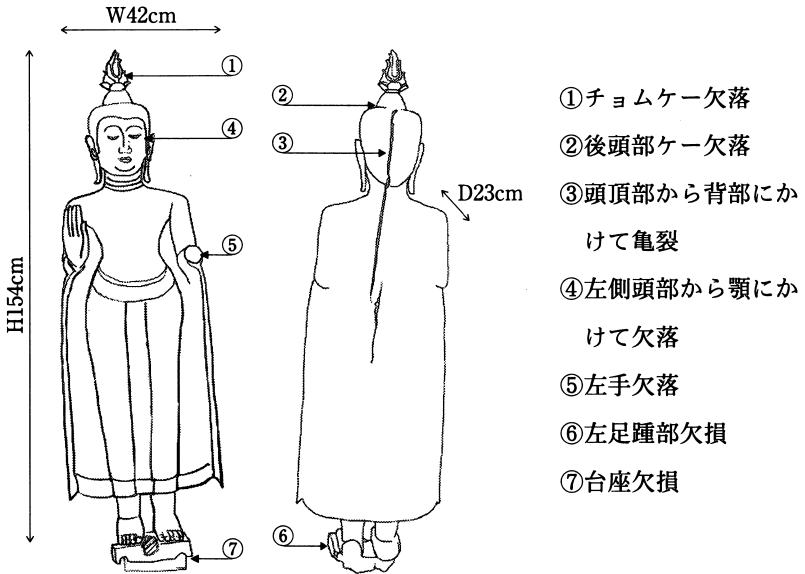


修復前



修復後

破損状況



修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

No.29の仏像については、木工エポキシパテを使用して木痩せ部分を補い、マイキャンにて欠損部分を作成し接着剤で結合する。さらにカモクにて仕上げを行い、白口金箔を貼り古色に仕上げる。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

①チョムケーの復元

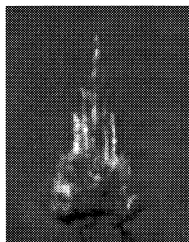
参考仏像を基にカモクと木工エポキシパテにてチョムケーの復元を行う。
金箔をはった後、古色を施す。



修復前



復元作業 1

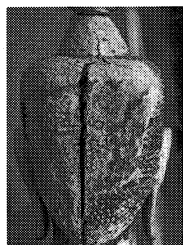


修復後

②ケー（ラホツ）

亀裂にカモクを詰め、整形する。後にカモクで作ったケーを漆で接着していく。

仕上げに残存しているケーとの色合わせを行う。



修復前



ラホツ接着



修復後

③頭部から背面にかけての亀裂

鋳を鉄で作成し、これ以上の本体の損傷を防ぐため亀裂部を留めた。

欠損部分にカモクを補い表面処理を行う。

鋳にもカモクをかぶせ、表面に出ないように仕上げる。最終仕上げに金箔を貼り古色を行う。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



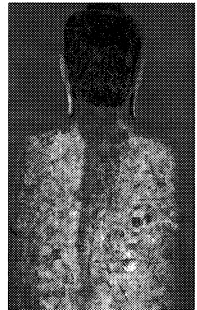
修復前



鋤打ち付け



カモク埋め込み



修復後

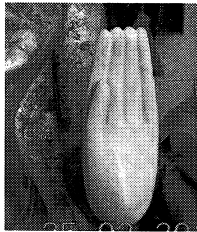
④左手

修復による接合部分の木痩せを防ぐため、接合部分を木工エポキシパテで加工し表面の調整を行う。

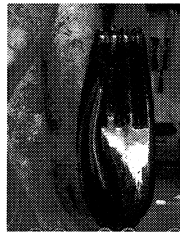
復元した左手接合補強の為、木ダボを接合個所に埋め込む。接合部分の修復と古色を施す。



修復前



左手接合



漆塗布後

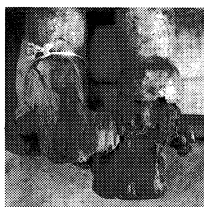


修復後

⑤左足踵復元作業

欠損部分にカモクを盛り付け、整形を行う。金箔を貼り、古色を施す。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復前



カモク整形



修復後

⑥台座・台座底部

欠損部の表面に木工エポキシパテとカモクを補い接合面を調整し、新材を調整面に接合する。

その際、ダボを埋め込み接合を強化する。

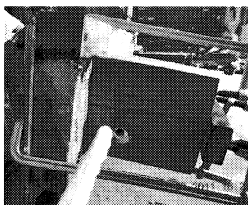
台座部分は金箔を貼り、古色を施す。底部は漆を塗り仕上げとする。



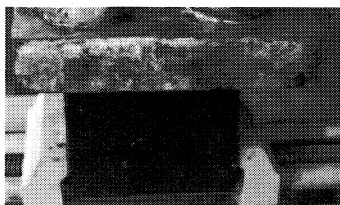
後方修復前



木工エポキシパテ加工後
マイキャン接合



台座底部接合

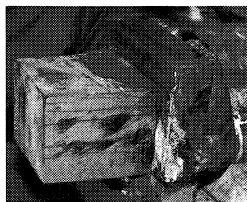


修復後

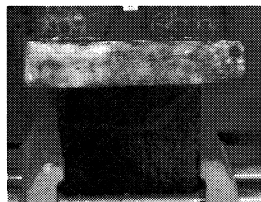
第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



前方修復前



マイキャン接合



修復後

W・シェントーン No.51

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：Phai vanh

仏像形態：コーホン

制作年代：不明

サ イ ズ：像高 H 177cm

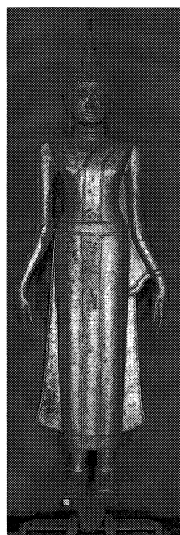
像最大幅 W 47cm

像最大奥行き D 20cm

材 料：マイキャン

仕 様：袈裟等着衣は（パビヤン袈裟）を左肩から右腰に纏い、右肩を露出させる。サボーン（袴）を履いて帯を付けている。

金箔は赤口と思われるが 全体にアクリル塗料の金色が塗られている。

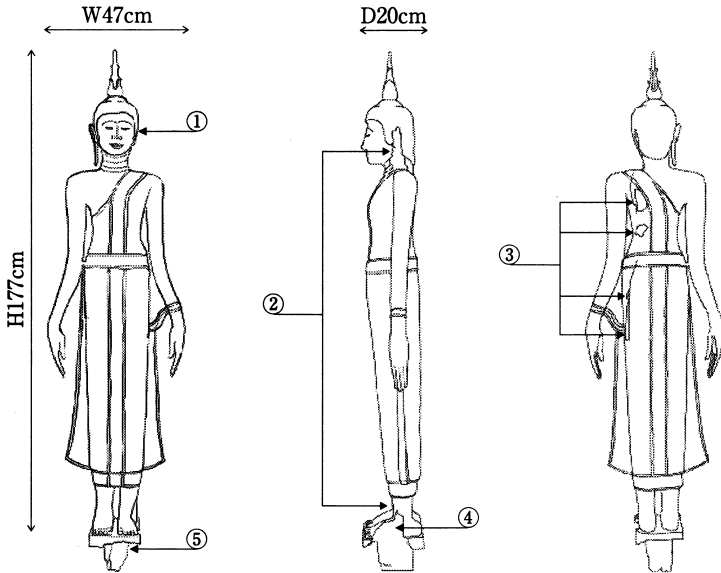


修復前



修復後

破損状況



- ①左耳欠落
- ②左頸から左足即部にかけて木芯腐朽
- ③左背面欠損 4 ヶ所
- ④左足側部欠損
- ⑤台座底部の欠損（主材の木心部ホール状の欠損）

修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

No51の仏像については、木工エポキシパテを使用して木痩せ部分を補い、

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

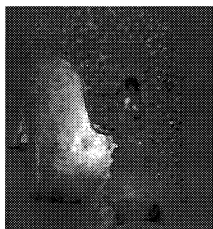
マイキャンにて欠損部分を作成し接着剤で結合する。さらにカモクにて仕上げを行い、赤口金箔を貼り古色に仕上げる。

アクリル塗料の除去については見送る

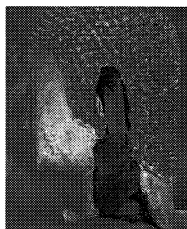
①左耳 ②頸部から足首にかけて木芯腐朽の復元

木芯腐朽の為仏像内部は空洞化している。今回は左耳接合の為頸のオリジナル部分と空洞を

カモクにて補強し、左耳を新補する。金箔を貼り、古色仕上げを施す。



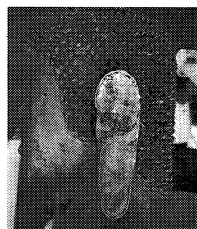
修復前



カモクにて補強



左耳接合



修復後

③背面欠損

欠損個所にカモクを埋め、乾燥後表面処理を行う。金箔を貼った後古色仕上げを施す。



修復前



カモクで埋めこみ



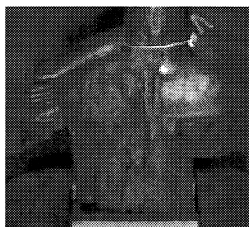
修復後

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

④左足欠損 ⑤台座

左足は欠損部分をカモクで補い、台座底部にはマイチャンを使用し修復する。

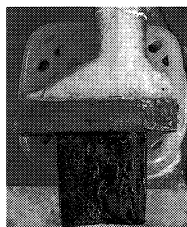
左足と台座は金箔古色仕上げを行い、台座底部は漆で仕上げる。



修復前



カモク加工・
マイチャン接合



修復後

W・シェントーン No.79

日 時：2011/2/13～2011/2/28

場 所：ラオス ルアンパバーン

王宮博物館仏像修復所

担 当：Somuchay

仏像形態：ハムニャ

制作年代：不明

サ イ ズ：

材 料：一部マイサック

仕 様：袈裟等着衣は paku（パコム、袈裟）を上体に纏い、
パサボーン（袴）を履いて
帯を付けている。

腰から下部分の金箔の色が
違うため修復の可能性が窺
える。

左足先から左側台座の一部が本体と違う素材（マイサック）で
作られているため同じく修復の可能性が窺われる。

欠落した左手の残存部分が本体と違う素材（マイサック）で作
られているため同じく修復の可能性が窺われる。

台座底部に修復の痕跡として布とカモクによる補強がみられる。

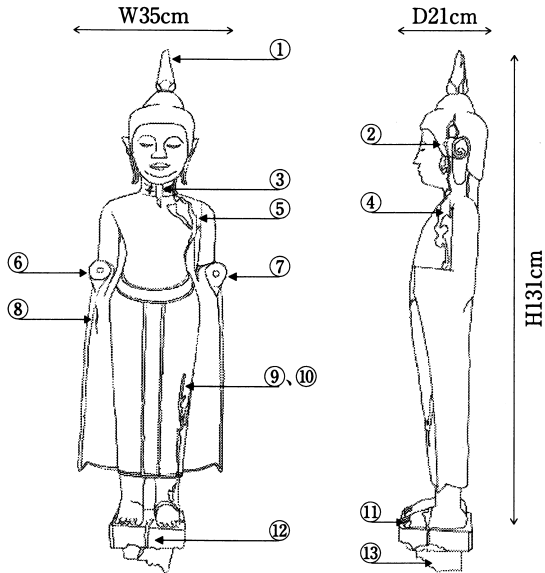


修復前



修復後

破損状況



- | | |
|--------------|---------------|
| ① チョムケー欠損 | ⑧ 右袖亀裂 |
| ② 左側頭部から首亀裂 | ⑨ 左腰から膝亀裂 |
| ③ 首欠損 | ⑩ 左ひざから足亀裂 |
| ④ 左胸から肩欠損 | ⑪ 左足欠損 |
| ⑤ 左上腕接合部分の不備 | ⑫ 台座前部及び左即部欠損 |
| ⑥ 右手 欠落 | ⑬ 台座底部欠損 |
| ⑦ 左手 欠落 | |

修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

かる程度の古色とする。

No.79の仏像については、修復の痕跡が見られるため、その痕跡を残すような修復を心がけた。

本体の素材の種類が特殊（不明）であるため材料の調達は不可能と思われる。ラオス側と協議の結果現時点では通常のマイサックを仕様することとした。

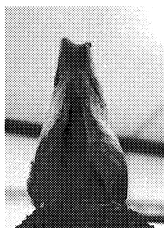
両手の復元についてはビスンNo.21の手を参考にした。

金箔について腰から上と足から下が修復時の赤口金箔と思われるため、白口金箔と使い分けることとした。

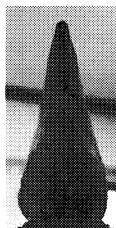
修復状況

①チョムケーの修復

欠損部をカモクにて修復を行う。金箔は白口金箔を使用して古色を施す。



修復前



カモク加工



金箔貼り



修復後

②左側頭部から首亀裂の修復

カモクにて亀裂を埋め、赤口箔を使用し古色を施す。

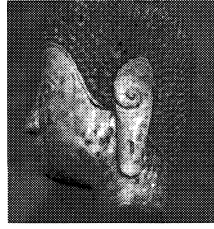
第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復前



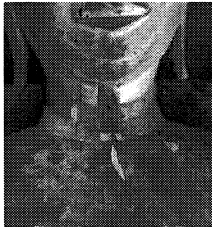
カモク加工



修復後

③頸欠損部の修復

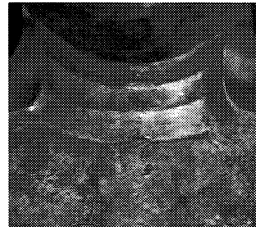
木工エポキシパテとカモクを使用して欠損部分を埋め、赤口箔を使用し古色を施す。



修復前



カモク加工

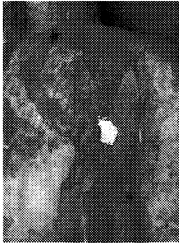


修復後

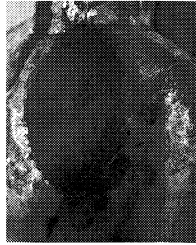
④左胸から肩欠損の修復

木工エポキシパテとカモクを利用して欠損部分を埋め、ナムキャンで赤口箔を貼る。仕上げて古色を施す。

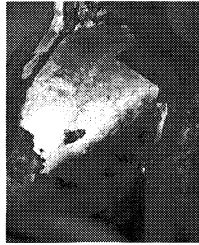
第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復前



カモク加工



金箔貼り



修復後

⑤左腕上腕接合の修復

接着技術の不良のため、残存接着剤の除去及び接着面の調整を行い、新たに接合する為の作業を行う。

その後、接合欠損部分を酢酸塩化ビニール接着剤を使用して再接合を行う。

接合後、カモクにて表面処理を行い、金箔貼り・古色仕上げを行う。



修復前



再接合



修復後

⑥・⑦右手左手修復

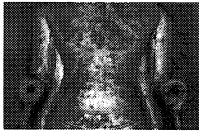
修復による接合部分の木痩せを防ぐため、接合部分の木工エポキシパテによる加工を行う。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）

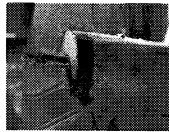
復元した両手接合補強のための木ダボを接合個所に埋め込む。

仏像の形状からハムニャであることが推測できるため、他仏の両手形状を模範し復元をする。

漆下地を施し、赤口箔を貼りつける。不自然でないよう胴体の色に近い古色仕上げを施す。



修復前



ダボ埋め込み



両手接合



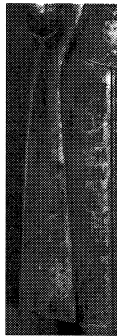
修復後

⑧右袖亀裂の修復

カモクにて亀裂を埋め、
赤口箔を使用し古色を施す。



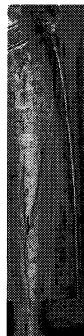
修復前



修復後

⑨、⑩腰から足首にかけての亀裂の修復

カモクにて亀裂を埋め、赤口箔を使用
し古色を施す。



修復前



カモク加工

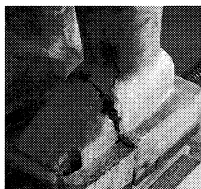


修復後

⑪左足の修復

左足前部が欠落していたため再接合を行う。その後木工エポキシパテと
カモクにて加工・表面処理を行い、金箔貼り・古色仕上げを施す。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復前



木工エボキシパテ・
カモク加工



表面処理



修復後

⑫、⑬台座欠損部の修復

欠損部分にカモクを補い新しく木材を接合する。さらに接合を強化するためダボを埋め込む。

古色を施し、仕上げとする。



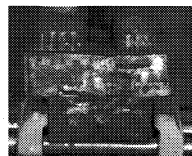
修復前



木材接合



ダボ埋め込み



修復後

国立博物館所蔵 パンリーラ

日 時：2011/2/13～2011/28

場 所：ラオス ルアンパバーン
王宮博物館仏像修復所

担 当：鈴木義孝・ノイ

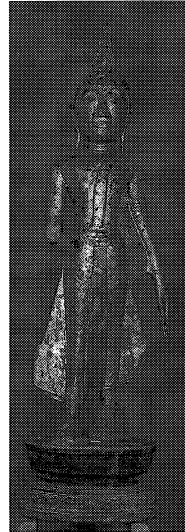
仏像形態：パンリーラ

制作年代：不明

サ イ ズ：像高 H 65cm
最大幅 W 18cm
最大奥行 D 16cm

材 料：

仕 様：袈裟等着衣は paku（パ
コム、袈裟）を上体に纏
い、パサボーン（袴）を
履いて帯を付けている。
金箔は赤口仕様



修復前



修復後

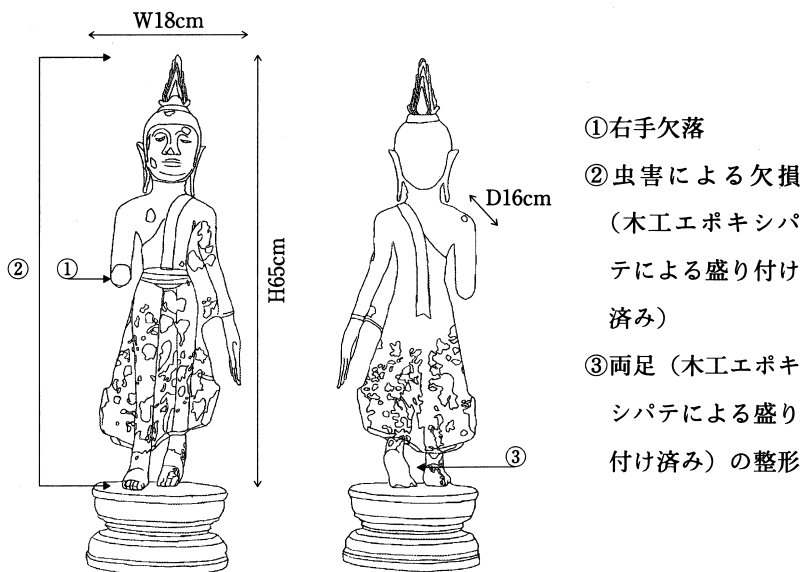
破損状況

前回からの継続修復仏像。

前は欠落していた本体と台座の接着、虫食いの為脆くなった木に人口溶剤の注入、虫害穴への木工エポキシパテ盛り付けを行った。

今回は右手の作成と古色を行う。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



修復方針

欠落・欠損部分を、現時点で分かっている参考仏像（時代・作風が近いと思われる仏像）を元に積極的に復元修復を行う。金箔等表面の仕上げは古色に仕上げ、全体的に統一した古色を施すが修復箇所は若干の違いが分かる程度の古色とする。

①右手欠落の修復

前回木工エポキシパテを盛ったところで終了していたため、その整形を行う。左手を参考に右手を復元する。

復元した手をダボにて接合し、漆下地を施し金箔を貼り、古色仕上げを施す。

第13回ラオス仏像修復プロジェクト報告（柳本）



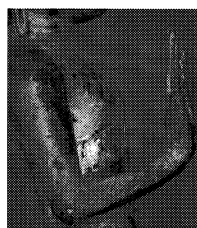
修復前



右手復元



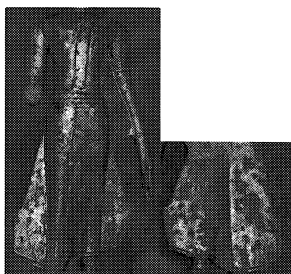
接合後金箔貼り



修復後

②虫害の修復

虫害による穴を埋めた木工エポキシパテを整形する。その後漆下地を施し、金箔を貼り、古色仕上げを施す。



修復前



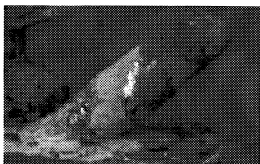
金箔貼り



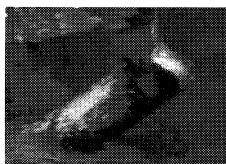
修復後

③左足修復

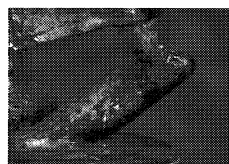
木工エポキシパテの整形を行い、漆下地を施す。金箔を貼り、古色仕上げを行う。



修復前



金箔貼り



修復後